

## 第13回千葉県食育推進県民協議会 会議要旨

1 日 時 平成28年6月27日(月) 午前10時～12時

2 場 所 千葉県ビジネス支援センター会議室(きぼーる13階)

3 出席者 構成員15名 県:33名

### 4 結果概要

#### (1) 開会

#### (2) あいさつ

伊東農林水産部長からあいさつ

#### (3) 座長及び副座長の選任

構成員の互選により、座長を明石氏、副座長を小松氏に決定。

#### (4) 議題

##### ①平成28年度における取組について

資料1及び資料2により安全農業推進課から説明。

#### 《①に関する質疑応答の概要》

##### (明石座長)

・進捗状況によると、「直近1年以内に農林水産業体験した、体験に参加したことがある人は千葉県で12.2%」、国の「農林漁業体験を経験した国民の割合は36%」。海と山がある豊かな千葉県で、なぜ低いのか。専門家の小松さん、このずれはどう考えればいいのか。

##### (小松副座長)

・小学校では、宿泊体験や農林漁業体験が、学校教育の中で行われている。それ以外の高校生や大人の農林漁業体験が少なくなってきたと思うが、千葉自然学校が行う体験活動では増えてきている。

##### (事務局 安全農業推進課)

・「国民の農林漁業体験の経験」は、これまでに体験したことのある方、という取り方をしている。一方、千葉県の取り方は、「最近1年間」という限定付きのため、差が出てきていると考えている。

##### (明石座長)

・1割強しか参加していない。これをどう考えていくかということ。だから月間を2つだったのを4つに増やしていくとの方向性もわかる。

・国立青少年教育振興機構において、日本、アメリカ、韓国、中国の高校生たちに体験に関するアンケート調査を行った。キャンプの経験については、一番多いのはアメリカ。

少ないのは日本と韓国。非常に内向きで、部屋で過ごす。お父さんお母さんは、キャンプ、自然体験を勧めるかというところ、アメリカでは勧める。日本と韓国は勧めない。

・これからお願いしたいのは、年齢層を分けて、幼児を持った家庭は体験させているのか、小学生の高学年からやめてしまうのか把握し、学校教育と農林水産部やJAが連携して、もう少し体験を増やしていく。千葉市は小学校6年生が短期山村留学に行っている。

・1年間で1割強しか、農林漁業体験に関わっていない。今田さん、農協としてどう思いますか。

#### (今田氏)

・私の体験上、非常に残念なケースが1つだけあったので、御紹介したい。JAグループでは、県内の小学校等に食育を推進するために、県の教育庁の協力をいただきながら、複数の学校に対する助成をしているが、ある学校から、ほ場の確保が難しいので、今回辞退したいと、非常に残念な話があった。子供たちに田んぼを経験させたい、畑の体験をさせたいなどの話があったら、ほ場の確保に向けては、JAが万全を期して提供する方向で検討するので、最寄りのJAへ相談していただきたい。

・JAも自己改革を実践中。県民の方々の御協力を得ないと、これから先JAの存在意義が問われてくる時代。万全を期して御協力に向けた取組をさせていただく。

・1点質問だが、計画の指標のモニタリングはどのような抽出をされているのか。

#### (事務局 安全農業推進課)

・16項目の数値の取り方については、参考資料の「第2次千葉県食育推進計画の目標指標の達成状況一覧」の表の下に、出典ということで載せている。出典の①は県政に関する世論調査、②は千葉県県民健康・栄養調査、③は千葉県生活習慣に関するアンケート調査、④は学校給食実施状況調査、県の主だったアンケート、世論調査をもとにしている。

#### (明石座長)

・鵜澤先生にお聞きしたい。今の今田さんの話を受け、JAが学校と協力できる体制をとってくれている。それに対して学校としてどう対応するか。

#### (鵜澤氏)

・農林業体験ですが、3月まで勤務していた学校は、地域の方、保護者の方のご協力で、田植え・稲作体験、それから餅つきなど、一連の流れを10年ほど続けている学校でしたが、保護者の方は、勤めに出る方が多くなり、続けるのが無理な状況になり、昨年度で区切りをつけたところ。4月から匝瑳市の方に勤務しているが、その学校は田んぼや畑の体験は今のところできない状況。

・生活科で、2年生が野菜等を作っている。JAの方の力強い後押しがあるのであれば、バケツ苗の体験などを活用しながらやっていければと思う。

・自然に触れ、生き物を育てる中での喜びとか難しさなど、いろいろ感じるところが多い

と思うので、経験、機会というのは設けていかなければと考えている。

**(西牟田氏)**

- ・千葉県20歳代の男性の朝食を食べない割合は、全国の数値をみても、改善してないだろうと推定される。これは朝食をとるのがめんどろという理由だけではないと思っている。経済基盤が安定していない、かなり若い人たちが食事に対して経済的な理由で困っているのではないかと。
- ・もうひとつ子供ですが、今、6人に1人が貧困家庭。そういった状況で、たぶん保護者の方はそれでも一生懸命、食事のことに気を配っていると思うが、この朝食をとらない割合はもっと多いのではないかと。朝食をとっていても、たぶんバランス的には悪いのではないかと。
- ・「朝食をとる」ことを推進するにあたり今後、経済基盤の問題が重要になってくると思う。

**(明石座長)**

- ・この数値はあくまでも平均だと思う。だから非常に地域差があるし、おっしゃるように経済力の問題もあるし、もっと限定していかなければと思う。

**(鈴木千鶴子氏)**

- ・保育園を代表して願います。資料2のバランスのよい食生活の実践に関する具体的な取組の欄に、食育月間の啓発、拡充があり、「公立保育所・幼児検診等での啓発」という文言がある。私は私立保育園。県内に保育園は1,000ちょっとあるが、民間の方が増えている。
- ・民間保育所では、いろいろな挑戦をしている。それで子供たちの飼育栽培や農業体験も含めて、いろいろな活動をしている。
- ・公立保育所という限定ではなく、公私立保育所とかという文言にしていただけならありがたい。
- ・「朝ごはんを食べよう」のところに、県立学校（農業大学校・消防学校等）という文言がある。ここも県立学校に限ることで啓発していくのか。若い人を対象にするならば、ここは県立学校という限定ではない方がいいと思うが、いかがでしょうか。

**(事務局 安全農業推進課)**

- ・資料に書いていないが、県内に私立の専門学校も70数校あると確認しているので、そういうところにも啓発の方をさせていただきたい。

**(明石座長)**

- ・バランスのよい食生活実践のところにある「野菜伝道師」は、どんなことをされているのか。
- ・2点目は「子育て支援チーパス事業」は、どういうことをされているのか。

**(事務局 安全農業推進課)**

・野菜伝道師は、県の農林水産部流通販売課が「ちばの野菜伝道師」をお一人と、「ちばの野菜伝道師協力隊」として野菜ソムリエコミュニティちばという、野菜ソムリエの資格を持った方々の団体を県が任命して、活動していただいている。県内の産地に出向いて産地の魅力を発掘し、それをSNSで発信したり、旬の野菜を使ったレシピをネットで配信したりしている。「教えてちばの恵み」という県のWEBサイトで、野菜伝道師の様々な情報をお伝えしているので、ご覧いただきたい。

・「子育て応援チーパス事業」は、県の健康福祉部子育て支援課が実施している。子育て家庭の応援に協賛してくださる企業を募り、また、チーパスというカードを子育て家庭に発行する。チーパスを持って協賛店に行くと、子育て応援サービスを受けられるという事業。事業専用のWEBサイトがあり、協賛店の紹介や様々な子育て情報を発信しているので、そういったWEBサイトと協力して食育も情報発信をしていきたいと考えている。

**(明石座長)**

・伝道師は何人いるのか。

**(事務局 安全農業推進課)**

・ちばの野菜伝道師はお一人。協力隊は野菜ソムリエコミュニティちばの方にお願ひしておりますので、会員の方々複数名いらっしゃると思う。

**(明石座長)**

・古賀さん、学校栄養士さんはそういった方とのつながりはあるのでしょうか。

**(古賀氏)**

・市川市の学校栄養士の研修会で、野菜ソムリエの方をお招きし、珍しい色のピーマンや芋などを見せていただき、子供たちに教えたいのであればいつでも、というようなお話はいただいた。

・栄養士たちは非常に興味を示して、子供たちに伝えたいと思いながらも、食に関する指導や生活科の授業等に取り入れられているかということ、そう多くはないと思う。子供たちにどう還元していくかは、まだ先の段階かと思う。

**(明石座長)**

・千葉さん、企業と野菜伝道師のグループとのつながりはあるのでしょうか。

**(千葉氏)**

・野菜伝道師ではないが、先ほどの野菜ソムリエの方は全国にいらっしゃるなので、私たちが販売と同時に、一緒に手を組んで啓蒙活動をしている。

・たまたま先ほど説明のあったチーパスを私も持っていまして、利用させていただいてい

る。小さいお子さんがいらっしゃる方々には便利。

・先ほど農業体験の話が出ましたが、小規模ですが、自社農場を運営しており、千葉だったら柏の方にあり、農業体験をしている。その中で、実際に参加いただいたお客様の御意見として、今の学校の授業等の延長上では、なかなか親の御都合で付き添えないというのがある。

・私たちの場合、民間企業なので、土日を利用して、親子では場に入らせていただくという形。なかなか学校で実施しにくいという環境があるのかなと。実際、小学校でカリキュラムを作っていくと、平日というのは難しいでしょうし、それ以上に、土日にイベントを実施するというのはかなり難しいのではないかと。

・土日に募集すると、定員以上に来ていただき、非常に楽しんでいただいている。学校のみならず、私たち民間企業等も、そういったことを積極的にやりつつありますし、これからも拡大していきたいと考えているので、みなさんから要望があれば、私たちもそれに向けていきたいと思う。

(明石座長)

・岡村さん、キックマンとしては地域の子供たちや学校とはどういう形で連携されているのでしょうか。

(岡村氏)

・農業体験は、一般公募で親子の食体験として行っている。トマトの畑に行ったり、野田でえだまめの収穫体験をやったりしている。一般公募の親子なので、何十組かその程度。

・東京の小学校では、平日に子供たちだけで先生が引率して、山中湖か河口湖だったか、そのあたりで米の収穫体験をやっている。

(明石座長)

・この辺で議題1を終わりにして、議題2で第3次計画の策定スケジュール案と、それに関連した議題3の第3次千葉県食育推進計画骨子案とをあわせて、事務局からご説明をお願いしたい。

## ②第3次千葉県食育推進計画策定スケジュール(案)

### ③第3次千葉県食育推進計画骨子案について

資料3、資料4及び資料5により安全農業推進課から説明。

## 《②③に関する意見交換の概要》

(明石座長)

・残された時間で、皆様方からこの第3次計画に対する御質問、御意見があればお願いしたい。

### (古賀氏)

・食生活の実践ということはとっても大切だと思う。子供たちが体験をしていることが少ない。調理の体験もそうだし、生産の体験もそうだと思う。調理実習をやっても、基本的な調理操作がやはりできていない。いろいろ聞くと、家庭でのお手伝いの機会が、非常に減っていると思っている。実際、朝ごはんのお手伝いをした人と聞くと、クラスでほんの数人しか手が上がらない。食に関わる体験を、もっともっとしてほしい。この施策の中にもそういったことが入ると、よりいいのかなと思う。

・親子で体験活動をするのは、親と子の両方の意識を高め、一定の効果が上がっているから、そういった活動も必要だと思う。

・私の学校でもまわりは畑が多くて、地元の農家の協力を得ながら、さつまいもの栽培をやっているが、教師の負担が非常に多いところがある。さつまいもは栽培途中の作業を子供達にやらせたいが、教師の方でやってしまっていることもあり、そのあたりでJAの協力や民間の企業の協力等もあるとよりいいのかなと思った。

・オリンピック、パラリンピックにより、スポーツに親しむ方が増えたり、あるいは中学生・高校生で部活動等をやっている、将来はという夢を持っている子供が増えたりするかもしれない。そういった中でスポーツ栄養の啓発があると素晴らしいと思う。

・個人的なことですが、マラソン解説者の金哲彦さんがいらっしゃるニッポンランナーズというところに所属しており、個人的にマラソンをやっていますが、私自身の体験として、食事の管理、スポーツする上で非常に大事と思っている。ニッポンランナーズの活動の中で、最近スポーツ栄養のことをやっており、先日、陸上大会に出る子供たちに対して、試合の前日にはこういうものを食べるといいよという話をして、リーフレットを配った。オリンピック・パラリンピックという素晴らしいイベントがあるので、そういったことがあっても素晴らしいのではと思う。

### (岡村氏)

・国の食育推進法の中では、日本の食料自給率はカロリーベースで確か39%ぐらい。先進国で一番低い。千葉の食料自給率は、結構高いかなと思ったら低い。これだけ地産地消の話をするなら、やはり食料自給率を上げるというような目標がなければ、おかしいのかなと思うが、お聞きしたい。

### (明石座長)

・今の千葉の自給率、意外と少ないですが、何%でしたか。

### (岡村氏)

・確か、29%ぐらいだったかな。

### (事務局 安全農業推進課)

・今手持ちがないので、後ほど調べて回答する。

**(鈴木千鶴子氏)**

・千葉県内の行政によりばらつきがあると思う。私たち保育関係もそうだが、待機児童の多い都市部と過疎化の地域では、取り組む内容も違うし、取り組む能力的なところもあると思う。54の市町村のうち、現在28しか計画ができていないということに対して、これからどのように数値を上げていくのか、ということが質問。

・今年9月に浦安を会場に子育て支援の全国セミナーを開催する。その時に、千葉の特産が全国に広がるようなことが、何か計画できないかと思い、千葉県に相談したところ、ちば食育サポート企業で、大網白里市にある緑川商店、カタクチイワシのだしを専門に扱っている業者を紹介してもらった。私の子育て支援センターにこの方を先日お招きして、実際に、出汁の取り方や実際に出汁を飲んでもらって、そこで感じてもらうという体験をした。お母さんたちにとって、とてもいい機会だった。この「ちば食育サポート企業」という存在もなかなか普及していないし、またこの方たちを、もっともっと地元を広めていきたいと思っている。私たち民間個人ができることと、行政がやることと、きつとすみ分けがはっきりしていると思うので、そのあたりで連携できることを希望している。

**(明石座長)**

・では、最初の質問に対して、事務局から。

**(事務局 安全農業推進課)**

・市町村計画の策定がなかなか進まない理由として、1つには食育が、農業分野、健康福祉分野、学校等、幅広い計画であること。市町村の中でも、各分野の連携が進まないと、計画の策定にこぎつけられないという状況がある。市町村の農林、保健分野、学校分野を同じ研修会に招いて連携を進めていくといった取組を展開している。また、県では昨年度に市町村計画策定の手引きを作成し、説明会等を開催している。その結果、昨年度5市町村で計画策定が進んだ。引き続き、こうした取組を進めて、1つでも多くの市町村に計画を策定していただこうと考えている。

**(高橋氏)**

・魅力発信と地産地消の推進で、「オリンピック・パラリンピック等、イベントを契機とした地元特産品のPR」とあるが、PRすることももちろん大切だが、特産品や郷土料理がどこに行ったら手に入るのか、あるいは、どこに行ったら食べられるのか、ということのPRも同時に必要と思う。

・「ちばの食育の推進体制強化」で、ちば食育ボランティアや食生活改善推進員の育成と書かれている。私たち食生活改善推進員も千葉の食育を支えている、一翼を担っていると意識は持っていますし、意識を高めていこうと思うが、経済的に厳しいものがある。ですから、行政やサポート企業など、多方面から応援していただくとともに活動が増えるし、活動そのものが楽しくて続いていくのではないかと思います。行政、関係各所の方たちのサポートをお願いしたいと思う。

(渡邊氏)

・3次計画の中に、「子供から高齢者まで」とあるが、妊婦や授乳婦、赤ちゃん等の食事が課題になっているので、赤ちゃんから、あるいは、妊婦から、にするのがいいのではないか。妊婦を対象とした教室で食事内容を聞くと、朝シリアルで、お昼は菓子パンで、夜にようやく食事という状況も多々あり、妊婦への啓発は大事だと思う。国の重点施策では、妊産婦や乳幼児という言葉も書かれており、また、貧困の状況にある子供もあり、先ほど西牟田先生からもお話があったが、子供たちの食育に、そういったことも記載していただきたいと思う。

・子供たちにとって今何が必要か、その学校で何が必要かということを経験がわかったとしても、校長先生や教育委員会のバックアップがすごく大事で、食育を進めていくためには、市町村の理解が必要。教育委員会や学校管理者等の食育の意識を高めるということを加えていただくとありがたいと思う。

(鈴木道子氏)

・旭市は行政と食育ボランティアとのつながりが、すごく良くできていると、今いろいろな話を聞いて、恵まれていると思った。

・農業体験に関しては、旭には大原幽学があり、その関係で都市農漁村交流協議会を設置し、事務局は農水産課に置いている。田植えから草とり、稲刈り、収穫祭など一連の農業体験を行っており、東京、埼玉、県内、地元の親子が参加している。米はどのようにできるか、それから草取りのときには、田んぼにはどんな虫がいるのかという体験をし、農業に対する子供たちの考え方に響くようにしている。

・JAの女性部の力を借り、市内にある8か所の保育所で食育活動をしている。周りが農家なので、地域ではどんな野菜がとれるか、実際に野菜を見せて、子供たちに触れさせて、どんな匂いがするか、そんな体験をして、最後に、にんじんやだいこんを実際に包丁で切る。包丁を持つのが初めての子供たちもいる。それから、米粉と豆腐を混ぜてすいとん作りをしている。自分たちが作ったものを食べるという体験。普段の給食では、野菜を食べなくて困る子供たちが、自分が切っただいこんやにんじんは、しかめっ面をしながら一生懸命食べている姿を見て、保育所の先生はありがたいと言っている。

・ちば食育ボランティアとして、小学校、中学校に行った時に、どんな話をすればいいのか、これでいいのかと、いつも疑問を持ち、悩みの種でもある。ちば食育ボランティアの育成が必要。

・旭には未来のサッカーの選手、中学生が夏休みになると、農業体験で旭に来る。この子供たちと一緒に、地元の野菜を使った調理実習を一緒に行う。この時、ただ調理実習だけでなく、農家に対する感謝の気持ちを意識できるようにしている。

・こうした食育活動を行政の方たちと一緒にやっていることが多く、旭市は行政とのつながりが良くできていてありがたいと思う。



#### (内山氏)

・近年、有毒植物による中毒、28年度に入ってから、イヌサフランとギョウジャニンニクを間違えたとか、トリカブトを食べて3名の方が亡くなったとか。それからここ1、2年の間に、小学校の授業で観賞用のひょうたんを食べて中毒を起こしたり、理科の実験で校庭で育てたじゃがいもを蒸して食べて食中毒を起こしたりという事例があった。そういう中で、「学校における食育の指導体制と指導内容の充実」の、指導内容に有毒植物に関することも入っているか、入ってなければ入れていただきたいと思う。

#### (事務局 安全農業推進課)

・先ほどの食料自給率の関係ですが、千葉県の産出額ベースで、4,150億円のうち、野菜、果樹が1,800億ぐらい、お米が600億ぐらい、畜産関係が1,300億ぐらい。食料自給率の場合は、畜産では輸入の部分も考慮しなければならない。カロリーベースで28%、千葉県の農業構造で自給率を上げるような目標を出していくのは、なかなか困難かと思う。

#### (山倉氏)

・食を機能の面から支えていくべき立場で、お伺いしたい。資料5の(1)就学前の子供に関する「口腔機能発達支援」について、まだ具体策は決まっていないと思うが、実際にどういうことを目指してやっていくのか、方向性だけでもわかれば、教えていただきたい。

・それから、(6)高齢期は何歳ぐらいからを指しているのか、それによって、やるが変わってくると思う。

・もう1点、(2)アの情報発信というのは、具体的にどういうものを情報発信していこうと考えているのか伺いたい。

#### (事務局 健康づくり支援課)

・口腔機能の発達支援については、主に市町村向けの啓発が中心になる。現在、市町村向けにパンフレットを作成しており、以前からの継続事業という形になる。市町村の健診向けに、パンフレット等を作成、子供たち、就学前の子供の口腔機能の発達支援を行う。食育も入っているが、口の機能の発達面を中心に啓発をしている。

・また、高齢期については、前期高齢者の65歳以上を基準としている。こちらの事業に関しては、基金事業を活用して進めており、在宅歯科診療の機器関係整備として、高齢者向けに歯科医師の先生方に在宅を回っていただくための機器等の整備に対して補助をしている。

#### (事務局 安全農業推進課)

・情報の発信について、1つには、企業の皆さまにお手伝いいただきながら、バランスのよい食生活「グー・パー食生活」の啓発をしている。また、朝食欠食の問題もあるので、朝ごはんをしっかり食べましょうとか、大きくはこの2つ。バランスのよい食生活と朝食

の欠食対策の啓発を御協力いただきながら発信していきたいと考えている。

**(山倉氏)**

・たぶん1歳半、6歳、就学前の検診のときのパンフレットだと思うが、県内には発達遅滞の子や障害児の子がかなりいらっしゃる。その子達に向けての支援も必要と思う。お母さんたちは、うちは大丈夫だけど、そうじゃない子を知っていると、そういうことも多いので、ぜひそちらに向けていただければと思う。

**(明石座長)**

・まだいろいろあると思うが、時間の関係で、町長何か一言、行政がバックアップしてくれるといいという話もありますし。

**(菅澤氏)**

・お聞きしていて、いろいろな推進の方策があると、感心した。私ども多古町では、子育ての環境を良くしようということで、大きく今踏み出しており、幼稚園・保育園7園あったものを、1園に統合して、これで3歳児まで園内給食、3歳児以降は学校給食に慣れるために、学校給食から配食している。

・特に感じるのは、異年齢の子供が一緒に子育ての環境に入っているということで、嫌いな食事がほとんどなくなってきたことで、これはいいことだと思う。

・また、年齢差の環境が功を奏して、意外に生活が落ち着いてきている。集団生活はそういう意味ではいいことだと、思っている。

・食生活では、子供同士の刺激もあり、御父兄の方も関心を持つことで相乗的な効果が出ている。

・ボランティアなどを含めた活動を聞いていたが、一番重要なのは各部署が連携すること。これが重要なので、組織の内部、特に行政で努力をしていく必要がある。また、ちょっと踏み込めば効果が上がってくると思う。

**(明石座長)**

・最後に、小松副座長。

**(小松副座長)**

・体験活動を推進し、それを仕事にしている。キーワードとして教育旅行が、今回入ってきた。都市部の方から集団で来て、それを受け入れられる農家がまだまだ少ないという状況。また、農家が受け入れてくれても、大人数が来ると、なかなか農家がしゃべれない、そういう問題点もあるので、受入先、そして指導ができる農家を今後も増やしていく必要があると思う。

・やはり連携してやっついていかないと、いろいろな部分で難しいところが出てきたりするので、枠をとり払う必要があると思う。

**(明石座長)**

- ・ありがとうございました。今回の3次計画では、就学前の子供と、高齢者という新しいキーワードが入り、今、山倉先生や西牟田先生がおっしゃったように、ハンディを持ったお子さんとか、障害をもったお子さんをどうケアするか、食でいうと、子供食堂が今いろいろ考えられている。
- ・同時に、一人暮らしのおじいさん、おばあさんの食をどうするかということ。
- ・全体的な平均は行政が粛々とやっていただく。それと同時に、こういうところに重点を置くという面も考えていただくと、千葉県の食育推進計画は立派になるかなと思う。
- ・みなさん、貴重な意見ありがとうございました。
- ・では、その他について、事務局から何かありますか。

**(事務局 安全農業推進課)**

- ・本日資料の中に、御意見をお伺いする用紙をお配りさせていただいた。お帰りになり、改めて御意見等がございましたら、ご記入いただいて、安全農業推進課宛てにお送りいただければと思う。よろしく願いいたします。

**(明石座長)**

- ・以上をもちまして、議事を終わりたいと思います。円滑な議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。
- ・関係部局においては、今までの皆さまのご意見を踏まえながら、千葉県の食育施策の推進に一層努めていただきたいと思います。

**(5) 閉会**